

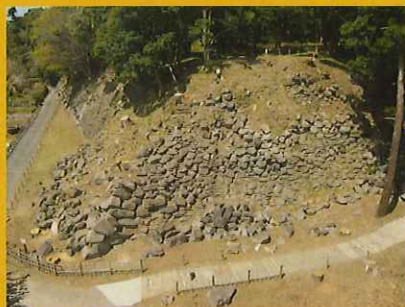
石垣山城

石垣山城は、「笠懸山」あるいは「石垣山」と呼ばれる箱根から派生する山上にあります。
関白豊臣秀吉が天正18年（1590）の小田原合戦の際に築いた陣城で、徳川家康の家臣松平家忠の記した「家忠日記（六月二十二日）」に「石かけの御城」とあることから「石垣山城」と呼ばれています。



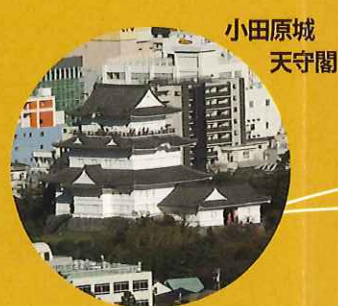
本城曲輪の石垣

この辺りの石垣は20mを超える高さで築かれており、石垣を築いた穴太衆の技術の高さがうかがえます。
小田原城から見える面のため、小田原北条氏が驚かせた石垣の一つでしょう。



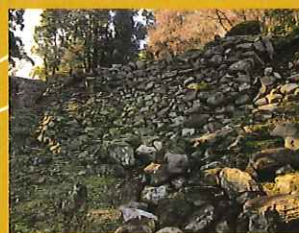
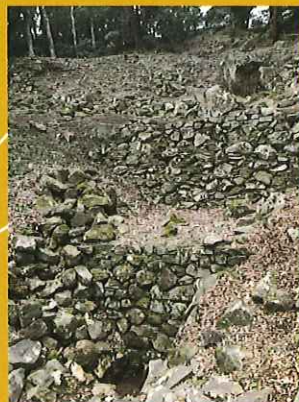
南曲輪の石垣

この辺りでは、城としての役割を終えた際にお城の一部を壊す「城割り」という作法の痕跡が確認できます。
虎口（お城の入口）や石垣の隅が崩れているのは、そのためです。



井戸曲輪

泥着化粧の井戸とも伝わる井戸です。
谷を石壁で塞いで井戸とした井戸曲輪の石垣は圧巻です。



二の丸東側石垣

二の丸の東側にも石垣が積みれています。この辺の石垣には比較的小さな石が使われています。

小田原城を望む

石垣山城からは、小田原城とその城下が一望できます。
相模湾の彼方には、三浦半島や房総半島の山並みも見られます。



小田原合戦と一夜城伝説

小田原北条氏を攻めることを決意した関白豊臣秀吉は、天正18年（1590）3月1日に京都を出発し、4月3・4日には小田原城の攻囲を開始しました。そして、4月6日には早雲寺（箱根町）を本陣とし、その日のうちに笠懸山（石垣山）に登って小田原城を眺望しました。

周囲9kmにわたり、壮大な堀と土壁で周囲を囲んだ小田原城を力攻めにするのは難しいと判断した秀吉は、長期戦の構えでこの場所に城を築くことを決めます。

普請は急ピッチに進み、5月14日には石垣ができ、広間・天守などの作事に取り掛かります。6月9・10日には伊達政宗が普請中の石垣山で秀吉に伺候します。その時政宗は、前日に無かった白壁を「紙を貼ったもの」と見破り、秀吉を初めとする諸將に賞賛されています。

6月26日、秀吉は石垣山に本陣を移しました。それを期に、秀吉は小田原城へと一斉に鉄砲を撃ちかけさせ、小田原北条氏方を脅かしました。

このような秀吉の行動や政宗と白壁の逸話が、「小田原城を遮る大樹を悉く斬る。小田原城中より是を見て、笠懸山に附城一夜に成就せるに驚く」（『大三川志』）や「面向きの松の枝ども切りすかしければ、小田原勢肝をつぶし、こはかの関白は天狗か神か、かやうに一夜の中に見事なる館出来けるぞや」（『北条記』）などという、一夜城伝説を生んだのです。

一夜城伝説の真意はともかく、人員を大量動員した築城を可能とする秀吉の権威と財力が、小田原北条氏が降伏する決定打となったのです。

